

響き合うデュオ～ギター&ヴァイオリン

事業レポート

8月20日(土)、8回目となる名古屋市公会堂ロビーコンサートを開催しました。当日の会場の様子をご報告します。前回までのレポートもあわせてお読みください。



連日、体温並みのうだるような暑さの続く名古屋の夏。この日も外気温は36℃に達しましたが、一步館内に入ると、程よく冷えたロビーは快適です。今回も客席が全て埋まる多くのお客さまをお迎えしました。開演前にはいつものように、公会堂の歴史やロビーに残る開館当時の面影をご紹介しました。

いよいよ開演です。

この日の出演は Duo Equinox(デュオ・エクイノックス)。名古屋音大大学院卒業の山口美夕鶴と、ロシア出身のアレクサンドル・ガラガノフが09年にスイスで結成した、ヴァイオリンとクラシックギターの、一般にはあまりなじみのない組み合わせのデュオです。

幕開けは誰もが耳にしたことのあるクライスラーの「美しきロスマリン」。ヴァイオリンの艶やかで伸びのある音色と、クラシックギターの繊細で緻密な音色が重なり、客席を引き込みます。続いてスペイン民謡集や、聴く機会の少ないロシアの作曲家による曲を披露しました。





このシリーズにクラシックギターが登場するのは初めて。高まる客席の期待に応えて、ギターソロではトレモロ技法の代表曲「アルハンブラ宮殿の思い出」、同じくアルペジオ奏法の名曲「禁じられた遊び」を演奏。

いずれも広く知られたクラシックギターのまさに定番曲ですが、目の前での息をのむ迫力ある演奏と高度な指使いに、客席が静まり返ります。

演奏の合間には楽しくためになるトーク。

同じ弦楽器であるヴァイオリンとギターの構造の違いを分かりやすく説明し、音の違いの理由に客席も納得。



後半は乗りのよい曲が続きます。

開催中のリオデジャネイロ・オリンピックでは日本人選手が連日大活躍し、メダルラッシュに沸いています。そのオリンピックに因んで、ブラジル人作曲家によるボサノバを披露。さらに、ピアソラ「リベル・タンゴ」からアンコール曲のモンティ「チャルダッシュ」まで、踊るような演奏で盛り上げました。



以下にごく一部ですが、アンケートにお寄せいただいた皆様の感想をご紹介します。

- クラシックギター、バイオリンの協演は初めてで大変感動しました。
- ギターとバイオリンがこんなに合うとは思ってもいなかった。
- お二人の息がぴったりで素晴らしいコンサートでした。
- ギターを生で聴くのは初めてだったのでとても楽しめました。
- お話もとても分かりやすく、演奏も素敵でした。
- ギターで聞いてみたいと思っていた曲を生で聴くことができ、とても楽しめました。
- 禁じられた遊びを、とても久しぶりに聞きました。映画の名場面を鮮やかに思い出すことができました。
- ロシアの曲を知らなかったのでこんなにすてきな曲があることを知れてよかった。
- 一番暑いひとときを美しい音楽で涼しく過ごすことができ、とてもよかった。
- 身近にクラシックに触れる機会を作っていただき感謝しております！

ロビーコンサートの魅力はクラシックファンだけでなくどなたでも気軽に聴けること。また、舞台との距離が近く、演奏者自身による曲目解説などのトークもあり、演奏家をより身近に感じることができます。

次回開催は12月を予定しています。是非お楽しみに！